

第11回高校生ものづくりコンテスト九州大会が開催されました

自動車整備部門において 大分県代表が見事優勝!

7月15日（日）に第11回高校生ものづくりコンテスト九州大会が、鶴崎高等学校と大分県立大分高等技術専門校を会場として開催されました。（自動車整備部門のみ高等技術専門校で実施。他部門は鶴崎高等学校で実施。）

この大会は、近年の若者の製造業離れが進み、ものづくりの技術・技能の継承が危ぶまれているなか、産業を支える技術・技能水準の向上を図るとともに、若年技術・技能労働者を確保し、育成することを目的とし、また、各高等学校で取り組んでいるものづくりの学習効果の発表の場として、社団法人全国工業高等学校長協会が毎年行っている大会です。今回で11回目となります。

11月17日には北信越で全国大会が、旋盤作業、自動車整備、電気工事、電子回路組立、化学分析、木材加工、測定の7つの部門に分かれて実施されます。

この全国大会に出場できるのは、全国9ブロックの地区大会に優勝した人だけです。また、地区大会に出場するためには各県で行われる県大会に優勝し、代表となる必要があります。全国大会に出場するにはかなりハードルが高いといえます。

大分県大会は6月15日に行われ、鶴崎高等学校機械科の須川滉道さんが優勝しました。

7月15日には、地区大会である九州大会に、宮崎を除く九州各県の代表7名が集まり熱戦が繰り広げられました。

大会前日には、選手や審査員などの関係者が鶴崎高等学校に集まり、開会式と事前説明会を予定していましたが、大会前日の14日は九州北部で豪雨による災害が起こり、高速道路やJRなどの交通網が寸断されました。また、日田市では国道も冠水により通行に支障が出たことにより、選手を始め関係者の到着が大幅に遅れ、開会式を中止にするという異例の事態になりました。選手の中には自宅が浸水に見舞われ、集合時間までに学校にも来られない選手もいたようです。

自動車整備部門も、午後から事前説明会を予定していましたが、2県の選手が時間に間に合わず夜遅くなって到着したようです。その2県の選手は当日の早朝に事前説明会を行いました、疲労と精神的な動揺で本来の実力を発揮できないことが杞憂されました。大会事務局の担当者も随分と気を揉んでいましたが、大会当日は天気も回復し、なんとか全員が揃っての大会を実施することができました。

午前9時から始まった競技の内容ですが、課題1は学科問題で残りの3つの課題は実技競技で

す。(課題2は測定作業、課題3は定期点検、課題4は故障診断)それぞれ100点満点で合計400点満点で競いあいました。

各課題は30分で、中には外部診断機を使った故障診断もあり、プロの整備士でも難しいと思われる問題を、各選手は時間内に次々に解いていきました。

結果は、大分県代表の須川滉道さん(鶴崎高等学校)が400点満点中359点という得点で、連覇を狙っていた長崎に7点という僅差で優勝しました。

県下には公立の自動車整備科が無い中、連日の猛特訓で優勝の栄冠を勝ち得たことはお見事だといえます。

課題4の故障診断にはベンチエンジンが使用されましたが、大分トヨタ自動車(株)さん、大分トヨペット(株)さん、トヨタカローラ大分(株)さんがそのベンチエンジンの提供と搬送を、また、大分トヨタ自動車(株)さんには審査員の協力もしていただきました。

また、当会も次代を担う若者の育成のため、大会準備、問題作成、審査員として協力をさせていただきました。

なお、九州大会は、九州各県持ち回りで2年ずつ行っていますので、来年度も大分で行われる予定です。

須川滉道さんには11月に行われる全国大会において上位入賞を期待するところです。



神妙な面持ちで開会式に臨む選手達



課題1の学科問題
大分県代表の須川選手(左)は見事100点満点を獲得



課題2に臨む他県の選手
バルブクリアランスとシムを測定し、基準値になるように適切なシムを選択するという高度な問題



ボルト、ナットの締め付けは、当然トルクレンチを使用



課題3の定期点検
ジャッキアップを行っている須川選手



課題4の故障診断
エンジン不調と、エンジン始動不能の2台のベンチエンジンを使用